

【高岡税務署長賞】

「代償による恩恵への報い」

富山県立高岡南高等学校二年 作田 陽登

税金を支払うことは国民の義務である。私は将来就職して社会人となる。社会人になれば自分の中にはある程度自分で決めることができる。その中で私は自動車が欲しい。それが会社への移動が簡単になったり、様々な場所へ観光に行ったりすることができるからだ。そこで、将来自動車を購入するのにあたり、どのような税金がかかってくるのか調べてみた。すると、自動車の購入の際には四つの税金がかかることが分かった。

一つ目に自動車税である。自動車税とはナンバープレートのついた自動車を持っている所有者に四月一日時点で自動車の排気量に応じて毎年かかる地方税のことである。そして事業用の自動車などには低額な税金である。一方、自家用の自動車は高額な税金となっている。その差は約二倍から三倍である。

二つ目に自動車重量税である。自動車重量税は、検査自動車と届出自動車に対して毎年かかる国税のことである。しかし車検時にまとめて支払うのが一般的である。また、自動車重量税には五百キログラム単位で区切られている車両重量、乗っている自動車の車種、自動車を新規登録してからの年数、エコカー減税に該当するかどうかの四つの項目によってその税額が決められるものである。

三つ目に環境性能割である。環境性能割は、自動車の排ガス基準や、燃費達成基準などで表現される環境への負荷に応じて、自動車の購入の際に一回だけかかる地方税のことである。また二〇〇九年にその税金の使い道が道路特定財源制度の目的税から普通税へと変化した。

四つ目に消費税である。消費税とは商品の販売やサービスの提供などの取引に対してかかる税金のことである。また現在、消費税は十パーセントであるが、このうち約八割は国税として、残りの約二割は地方税として納められている。

以上のことから自動車を購入するにあたり、様々な税金がかかることが分かった。近年では物価高な状態が続き、それにともない、自動車の部品も値上がりしたため、自動車全体の価格も高くなっている。その影響で自動車一台の購入時にかかる税金も高くなっている。現在の日本は給料が上がりづらい状況が続いている。そのような社会の中でも、社会人は税金を支払っている。それによって今の社会保障制度は成り立っている。その恩恵を今、私たちが医療費や教育費の面で受けている。私も将来は就職をして仕事をする。そして様々な税金を支払わなければならない。つまり、次は私たちが社会を支えるのである。そのため、豊かな社会の現実のために将来は自動車を購入して今まで社会人の代償によって受けた恩恵に報いるためにも私が社会人になったら、税金をしっかりと納めていきたい。